

# 感染症

## ◆第1種 <発生はまれだが、重大な感染症>

感染症予防法により、発症すると入院・治療し、完治するまで退院できないので、その間は登校できません。

※エボラ出血熱、クリミア、コンゴ出血熱、痘そう、ペスト、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、新型インフルエンザ等感染症、新感染症等

## ◆第2種 <放置すれば流行が拡大してしまう可能性がある飛沫感染する感染症>

学校等に届け出て、定められた出席停止期間に従い、医師の登校許可が出るまで家庭で安静にします。【感染症は一覧表参照】

## ◆第3種 <飛沫感染が主体ではないが、放置すれば流行が拡大する可能性がある感染症>

出席停止の個別の基準はありませんが、「病状により医師において感染のおそれがない」と認めるまでとなっています。【感染症は一覧表参照】

### (第2種)

### 主な感染症一覧表

病名	おもな症状	感染経路	潜伏期	感染期間	出席停止期間	備考
インフルエンザ	高熱（39～40℃） 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感 咳、鼻水、のどの痛み	飛沫 接触	1～4日	発熱1日前から3日 目をピークに7日目 頃まで	発症した後5日を経過し、 かつ熱が下がって2日（幼 児は3日）を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意。 発熱や意識の様子に気をつける。
百日咳	コンコンという短く激しい咳 が続く	飛沫 接触	主に 7～10日	咳が出現してから 4週目頃まで	特有の咳が出なくなるまで	3歳以下の乳幼児は肺炎を合併 することがある。
麻疹（はしか）	発熱、鼻汁、目やに、発疹、 くしゃみ	空気 飛沫 接触	主に 8～12日	発熱出現前日から、 解熱後3日を経過す るまで	熱が下がって3日を経過す るまで	
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発熱 耳の前下部の腫れと痛み （押すと痛む）	飛沫 接触	主に 16～18日	耳下腺の腫れる1～ 2日前から腫脹5日 後まで	耳下腺の腫れが発現した後 5日を経過し、かつ全身状 態が良好になるまで	思春期以後の感染では、睾丸炎、 卵巣炎の合併に注意。
風疹 （三日はしか）	38℃前後の発熱、発疹、 リンパの腫れ	飛沫 接触	主に 16～18日	発疹出現前7日前～ 出現後7日目頃まで	発疹が消えるまで	妊娠初期の感染により、胎児が 脳、耳、眼、心臓の異常や精神 発達を発症することがある。
水痘 （水ぼうそう）	発疹 →水泡 →かさぶた 軽い発熱	空気 飛沫 接触	主に 14～16日	発疹出現1、2日前 ～すべての発疹がか さぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたに なるまで	
咽頭結膜熱 （プール熱）	38～40℃の発熱 のどの痛み 目やに・結膜の充血	飛沫 接触	2～14日	発病してから 2～4週間	主な症状がなくなった後2 日を経過するまで	医師の許可があるまで、プー ルには入らない。
結核	（初期の症状として）発熱、咳、 疲労感、食欲不振など	主として 空気 （飛沫核感染）	2年以内 （特に6ヶ月 以内）	様ではない	症状により医師が感染のお それがないと認めるまで	感染が強く疑われれば、発病予 防のために、化学療法剤の服薬 を行う。
新型 コロナウイルス	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、 味覚異常、嗅覚異常等 無症状の場合あり	飛沫 接触	2～7日	発症前から 発症後5日前	発症後5日を経過し、かつ 症状が軽快した後1日を経 過するまで	咳エチケット、手洗い等により 手指を清潔に保つ。換気を行う。 発熱等の症状がある場合には、 自宅で休養する。

### (第3種)

腸管出血性 大腸菌感染症 （O-157）	激しい腹痛、水様性の下痢 血便	接触 経口	10時間～ 6日			溶血性尿毒症症候群などの合 併症に注意。
流行性角結膜炎	目の異物感、充血、まぶたの 腫れ、目やに、瞳孔に点状の 濁り	接触	2～14日		症状に応じて医師が判断する。	
急性出血性 結膜炎 （アボ口病）	目の激しい痛み、結膜が赤く なる 異物感、涙が出る	接触	EV70: 平均24時間 CA24v: 2～3日	1～2週間		医師の許可があるまで、プー ルには入らない。
伝染性膿痂疹 （とびひ）	顔や手に米粒～豆大の水泡 →膿が出る かゆみ	接触	2～10日	水泡から膿の出る間	出席停止の必要なし	
手足口病	軽い発熱（2～3日）小さな 水泡が口の中、手足にできる	飛沫 経口 接触	3～6日	のどから1～2週間 便から 数週間～数ヶ月	全身状態が安定している場合 は登校（園）可能。	
伝染性紅斑 （リンゴ病）	両頬に少し盛り上がった尋麻疹 様の発疹・発熱	飛沫	4～14日	かぜ様症状が出現し た時	発疹のみで全身状態の良い者 は登校（園）可能。	妊婦は感染しないよう、流行 期には注意が必要。

※上記は基準であり、個人の症状や、地域や園によって異なる場合もあります。治療後の登園・登校については医師とご相談ください。

# 急な病気や事故など、いざというとき

## 救急指定病院【町立中標津病院】

町立中標津病院は、救急指定病院となっています。  
救急外来は24時間体制で受け付けております。  
まず、お電話でお問い合わせください。

※救急外来は緊急に治療が必要な重症の方を診るためのものです。



## 救急車の呼び方 119番

- ① 119番をおす。
- ② 場所を告げる。(住所、アパート、目印なども)
- ③ 病気・事故の内容の説明  
どのような状態か、子どもの年齢、性別、容体等を落ち着いて伝え、必要により応急処置の指示を受ける。
- ④ 救急車の誘導
- ⑤ 救急車が到着したら  
応急処置の内容を報告し、持病があればかかりつけの病院・医師名を告げる。服用している薬があれば報告する。

## 北海道小児科救急電話相談

看護師等が電話相談に応じ、直ちに救急病院にかかる必要があるか、家庭でどのような応急手当てをすればよいかアドバイスをします。  
より専門的な知識を有する相談は、小児科医が応じます。

- 受付時間 毎日午後7時～翌朝8時
- 受付電話番号 011-232-1599 短縮ダイヤル#8000  
(IP・ひかり電話からはつながりません。)

## 中毒110番・電話サービス

(公財)日本中毒情報センターでは、化学物質(たばこ・家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによっておこる急性中毒について、応急手当てなど情報提供をしています。

- 一般専用電話【365日 24時間対応】  
大阪 072-727-2499 / つくば 029-852-9999
- たばこ誤飲事故専用電話  
072-726-9922  
【365日24時間対応 自動音声応答による情報提供】

# 防げる事故から子どもを守るために

昨日できなかったことが今日できるようになるのが子どもです。成長を感じて嬉しい反面、好奇心が芽生えて活動力は増えるということは、事故にもつながりやすく、そこには危険性もひそんでいます。不慮の事故から子どもを守るために、具体的な対策を「今」はじめてみましょう。

こども家庭庁事故防止ハンドブック



### ●子どもの発達年齢別事故とその対策

年齢	0～4か月 寝返り前	5～8か月 寝返り・おすわり	9～12か月 はいはい・つかまり立ち	1～2歳 ひとり歩き 走る	3～5歳 ジャンプ 階段上り下り
誤飲 窒息	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔らかい寝具</li> <li>吐いたもの等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>タバコや灰皿、医薬品、化粧品、ボタン、電池、硬貨等</li> <li>おもちゃの対象年齢を確認</li> <li>丸くてつるんとしたもので、口に入りそうな物</li> <li>のどに詰まりそうなもの(餅・豆類・あめ・パン等)</li> <li>ビニール袋やラップ、紐、コード、洗剤</li> </ul>		
やけど	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミルクの温度</li> <li>ストーブやヒーター</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポット、炊飯器、湯気の吹き上げ</li> <li>調理中はキッチンに近づけない。(包丁、ヤカン、鍋)</li> <li>ライターやマッチ、アイロン</li> </ul>		
おぼれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>疲労感、飲酒時は一緒に入浴しない。</li> <li>浴槽の床に滑り止めマット</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>浴槽や洗面器のお湯</li> <li>浴室には鍵をかける。</li> <li>子どものみでの水遊び・入浴をさせない。</li> </ul>	
転落 転倒	<ul style="list-style-type: none"> <li>靴下やスリッパ(抱いている時)</li> <li>上の子が抱く時は、大人が支える。</li> <li>ハイチェアやベビーカーでは安全ベルト</li> <li>ベビーベッドの柵を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーペットのめくれや段差</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>窓、ベランダ、階段など柵をつける。</li> <li>ドアや窓には鍵をかける。</li> <li>すぐ下に踏み台になるものは置かない。</li> </ul>	
けが	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイルドシートは年齢にあったものを利用し、必ず安全ベルトを使用する。</li> <li>床にある危険なもの</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フードやひも付きの洋服に注意</li> <li>引き出しやドア</li> <li>刃物等</li> <li>家具の角</li> </ul>		